

ドキュメンタリー映画「血筋」神戸上映会

中国の歴史に翻弄されながら生き延びた朝鮮族の家族を通して見る、中国朝鮮族自治州・延吉の「今」を描いたドキュメンタリー映画

2019年7月2日(火)午後7時 終了後、監督を囲む会があります。8時40分終了予定。

会場：神戸学生青年センターホール TEL 078-851-2760 阪急六甲下車徒歩3分、JR六甲道下車徒歩10分
料金：700円

題名：핏줄/Indelible/血筋／監督・撮影・編集：角田龍一／音楽：郷古 簾／プロデューサー：角田龍一、山賀博之

言語：朝鮮語、日本語、中国語／製作年：2018年／上映時間：1時間12分／料金：700円

※■角田龍一 監督 1993年、中国朝鮮族自治州・延吉で生まれ、10歳で日本へ移住。新潟県立大学卒業。専攻は比較文化学。在学中に長期休暇を利用し、本作品を制作する。自身の作品を制作する傍ら、他の映画製作にもスタッフとして関わっている。



<監督より>

はじめまして、角田龍一です。僕は幼い頃から映画が好きで、大学生の時から映画を製作しはじめました。助監督などの経験を経て、今回はじめて監督としてドキュメンタリー映画を制作します。

今まであまり描かれて来なかった中国朝鮮族自治州・延吉の人々の現状を父と子、そしてそれぞれの人間模様を通して映し出しました。

主人公である少年は、中国朝鮮族自治州・延吉（えんきつ）に生まれ、10歳のときに日本へ移住した。20歳を迎えた少年は、自分の過去を振り返るため、画家だった父を探すことを決意する。

故郷である延吉を訪ね、伯父や祖父母に父の行方を尋ねるが誰も連絡先を知らず、さらに父の話題に対してあまり良い顔をしない。なんとか伯父の助けを借りて、父が韓国にいることを突き止め、18年ぶりに韓国で再会を果たした。

父親は不法滞在の日雇い労働者として生計を立て、借金取りに追われる日々を送っていた。そのような状況でも、父としての虚栄心と自己満足的な愛情を「お金」という形で表現しようとする父に、息子は辟易してしまう。

それでも、ファインダ越しの被写体として「父」を冷徹に見つめることで、現実を映画へ置き換えて父と向き合おうとするが…。

中国の歴史に翻弄されながら生き延びた朝鮮族にとって、貧しかった過去の記憶がもたらすものは、物質的な豊かさへの渴望と強烈な劣等感。

そして豊さの象徴である「コリアンドリーム」を求め、家族と離れて韓国へと出稼ぎに行く彼らの価値観は、親と子の間で微妙にずれながらも確実に受け継がれていくのであった。

とある父と子、そしてそれぞれの人間模様を通して延吉の人々の「今」を描く。

主催：神戸学生青年センター＆むくげの会（担当：飛田雄一）

〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1

TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878

